

となりの子育て



「結婚・産み・育て」に関わるさまざまな課題を解決するために、ワークショップを通してみんなで話したり、演劇の手法を使って考えてみましょう。

お子様を持つお母さん、お父さんだけでなく、結婚前の10代後半から20代の若い世代や、子育てを終えた世代も含めて気持ちをシェアし、みんなで考える場をつくります。



©Takaki Sudo

進行役：阿部 初美（あべ はつみ）

演出家。演劇集団円所属。故太田省吾（劇作・演出家）に師事後、演出家として活動。'06年より、にしすがも創造舎レジデント・アーティストとして、東京国際芸術祭を中心にドキュメンタリー的な作品『4.48 サイコシス』『アトミック・サバイバー』『エコノミック・ファンタスマゴリア』などを発表。東京芸術大学、(財)地域創造リージョナルシアター事業、各地の公共劇場などで講師を務める。'10年に出産。現在は子育てしながらワークショップを中心に活動中。

連続 第1回ワークショップ

日時：2014年6月13日（金）18時～21時30分

場所：日立システムズホール仙台

参加者：7名



現役学生から70代までそれぞれの世代が集まりました。名前ゲームでお互いの名前を覚えながら関係を深めた後、阿部さんよりプロジェクトの説明や他の都市での事例を紹介してもらいました。仙台での課題をふまえて、このワークショップでは、どのような意見が出され、考えて、表現にできるのか、参加者から「結婚・産み・育て」に関する話を聞いてみました。

70代・女性・Aさん

昔の子育てと今の子育ては全然違うでしょう。昔は苦勞を思ったことがないし、苦しいと思ったことがない。育ててしまえば手が離れて何ともないけれど、育てている間、いかに私を楽しませてくれるか、何をしてくれたか、ありがたみがあるから、冷たくしようが、何しようがその幸せは買えない。それを経験しないで、一人でいる人は、年をとったらどうするんだろうと思う。結婚はいくつになってもできる、好きか嫌いかの問題で、好きであれば必然的に子どもができる。産んだら食べさせていくのは親の責任。今の若い人は全然違う、誰にも頼らないし、本見ればわかるとか、作ることもインターネット開けばわかる

とか、ちょっと聞けばいいのに聞きたがらないでしょ。年寄りの言うことはやんだとか、そういう感覚なので、見て見ぬふりでしょう。電車の中で騒いでいても、何か言うところちがにらまれて、知らんふりになるでしょう、今の若い人たちは違うだろうなあと思います。私は「困っているんだけど1時間くらい見てくれないか」と言われたら喜んでやる。年寄りとは言ってくれば見てあげたいと思っている。

60代・男性・Bさん

我々の時代との違いは、住環境が全然違うことが一番かな。家族関係だよ。じいちゃんばあちゃんと住んでいないと、子育ての障害にもなるし、迷惑かけないで自分たちでやっていくんだという孤独感もある。今の人は共働きで保育所に預けるとかいうけれど、じいちゃんばあちゃんがいる人は特に保育所なんているのかね。女性も働きにいかなければならない社会になっているけれど、女性の働いて何なのか考えてほしい。社会に出てお金をとってくるのが女性の働きではないと思っている。家庭環境をつくるのが女性の大きな仕事。男ではできない。生物的にもできない。フランスでは逆だといっているけど、日本の文化にはない。外国のいいとこだけとってきたとしても島国で生まれてきた日本ではあてはまらない。私らが生まれて育ったときは、自然界から食料をとってくるのが男の子の唯一の仕事だった。どじょうや茸や山芋でもなんでもいい。サッカーしてる、なんて悠長なこと言われていられない社会で育ってきたから、当然のことながら親に対する最大の義務でした。家内は勤めたいと言っていました、勤めるのはいつでもできるから子どもたちが一人前になったら勤めなさいと言いました。今は大学を出て自分を別な形で能力を発揮させようと外に出て行く傾向があるよね。大学に行くなとは言わない。教養を身につけることは大事。教養は社会より子育てに使ってほしいと思う。

阿部

この意見に一部共感していて、このワークショップで会うお母



さんたちはとても優秀なんです。こういう人たちが未来を担う人材を育てているのは大事ですね。みんながみんな働くと言っているけれど、子育てもしたら良いのではないかと思います。

70代・女性・Aさん

男も女も同じ教育を受けられて、女の子は料理も親のを見る暇もなく忙しいでしょう、昔は親の手伝いをして習っていくのに、時間がないんだもの。若い人にとっては、これから年寄りばかりを支えなくてはならなくて大変だと思う。頼るという気持ちがないでしょう。私たちは苦しくなったら、誰かに苦しいって助けを求めにいけれど今の若い人たちは何の見栄かわからないけれど、助けを呼ばない、親にも言わない。自分で自分を悩んでおかしくなる。

30代・女性・Cさん

頼らないのではなくて頼れないんです。頼り方を教わらなかったのか。もしかしたら、役割みたいなものを自分で決めてよくなったからではないかと思っていて、私の親も核家族で育ち、私は好きなようにしろ、と育てられた。商売をやっていたけれど、継がせる気はなくて、好きなことをしていいと、責任もそこについてくるので、困った時だけ助けてって言えなかった。無責任なことはするな、人に迷惑をかけるなど言われた。

20代・女性・Dさん

個人的なことや経験が、「今の若い人は…」と、一括りにされるのが不思議。確かに、上の世代はみんな同じように貧しくて、そこから豊かになったという経験をしているけれど、私たちの世代はそういう共有するものがない。戦争やこうだというものがない。私の祖母は私の面倒を見ていなくて、自分の好きなことをやっていた。同じの世代の中でも違うと思う。姑さん舅の世話をしている人もいればしていない人もいる。祖母は全部母にまかせていたので、母の苦勞を見て、結婚は本当にしあわせなものなかと考えた。子どもが欲しいという気持ちはわかる。子どもは自分の成長、人生の経験が必要だと、理屈ではなく感覚で思っていて、理屈で考えると日本では子どもは育てたくないと思っている。

20代・男性・Eさん

私は男性が好きです。そのことが結婚や子どもをつくることのバリアになっていると思います。正直なところ結婚というもの

がどういふものかわかりません。友だちが結婚すると嬉しい気持ちになるけれど、なぜ結婚をしたのか日本では同性間の結婚は認められていないけれど認められていたとしても、今は積極的に考えられません。好きな人と一緒に暮らすだけでも十分ですが、法的なつながりもほしいかなと思います。自分の血を継ぐ人はいないだろうと。何十億年とつながってきた流れを途切れさせるのを考えると申し訳ないと思います。子どもではなく、別の形で後世に残せないかと探っています。周りの人については、うらやましかったり、引け目があったりします。他のところでちゃんとしないとかなと思います。

20代・女性・Fさん

私は学生で、前に就職活動をしていて、今、働きたくないなと思っていて。養ってもらえるならば、家事をしたい。やりたい仕事が無かったら、女の人は家に入って、家事をしたり子育てするのは自然な流れだと思う。

60代・男性・Bさん

私には40代の息子と30代の結婚した娘がいるが、子どもを育てるのに自信が無いといわれた。生活的な面では不安はないが、お父さんが私たちを育てたように自分ではできないと。

阿部さん

いろんな人がいて、いろんな立場で考えているのを、この場では共有しようということです。このワークショップには3つのポイントがあり、一つは「地域のひろがり」。仙台、北九州、水戸、世田谷。「縦のひろがり」。これは世代です。「時間のひろがり」。歴史から現代。これら3つのひろがりの中でいろんな人、いろんな立場で考えていることを、私たちはどうしていきましょうというのが狙いです。お互いに主張を聞き合い、主張だけだとぶつかるだけですが、後ろにある背景を聞いていく。男女雇用均等法だったり、戦後だったり、生まれた場所だったり、みんなにそれぞれの背景があって、共有すると「だからこんな考えなんだ」とわかりますね。



単発 第1回ワークショップ

日時：2014年6月14日（土）10時30分～13時30分

場所：のびすく泉中央

参加者：大人7名+子ども4名



お互いに名前を呼び合うゲームで参加者同士の名前を覚えた後、それぞれの「結婚・産み・育て」の関心事を共有しました。

- ・娘に孫の子育てに口を出して良いのか
- ・子どもをいっぱい産みたくてもお金がない
- ・母親と娘がまったく合わない
- ・娘の偏食、高血圧
- ・受験
- ・子どもが言葉を覚える過程に興味がある
- ・父親となかなか時間がとれない娘
- ・健康じゃないと二人目はむずかしいか
- ・子育てに関して親に頼れたらもっと楽かも・・・

関心事から2つのグループに分かれて、「自分の親世代と自分世代の関係」「母と娘」というテーマをもとにそれぞれ話し合いながらタブロー（静止画）をつくりました。



「母と娘」

— 振り返り —

阿部さん

母に言われてうずくまっている長女と仲裁する次女を見て、どうですか。

30代・女性・Aさん

閉ざしているように見える。閉ざしたら、どうやっていっても開けないだろうなど。他にいくこともできなくて、その場でうずくまっているように見える。

30代・女性・Bさん

長女だから期待が大きいと思った。

阿部

長男の特別扱いは聞きますが、長女だから特別というのもあるんですか

40代・女性・Cさん

私は次女ですが、姉を見て、特別だと思いました。うらやましいと思う反面、その立ち場じゃなくて良かったと思っていました。

50代・男性・Dさん

うちの妻は長女に過剰に期待しているわけではなくて、一般的なレベルだと思うのですが、それもできていないということなのかもしれない。母親の問題だと思う。理想が高い。

30代・女性・Bさん

ここまではなかったけど1回だけあった。うちの場合は母親ではなくて父親から長女だから頑張れと言われていて母が仲介してくれていた。弟が先に結婚したら、君はまだ？と言われて、結婚したら子どもはまだ？と言われて、一人目が生まれたら、二人目は？と言われた。

30代・男性・Eさん

親は言うことを聞かせたいと思うのだが、ものの言い方で、言い方が間違っているというか、言いたいことと本人は関係ないんだなと思いました。相手を見ていないというか。この言い方じゃ聞こえなくなっているてもその言い方しかしない。



「親子の関係」

— 振り返り —

阿部さん

真ん中におばあちゃんがいる、両端に娘家族がいる風景を見てどう思いましたか。

30代・男性・Fさん

3世代のつながりの理想像に見えた。別のワークショップで、



70代のおばあちゃんが子どもが生まれたことで初めて自分の存在意義を確かめられたと言っていて、それはどういうことだろうと考えた。自分と親と二点の関係から自分の下に子どもという一つ点ができると、真ん中にある自分は上の親をみて、下の子どもをみて、思考が行き来できるようになる。自分を中心に物事を考えられるようになるからなのかなと。

30代・男性・Eさん

画の中のお父さんは最初は中にいたのですが、あなたはこっちははずされてしまった。話し合いで思ったのは、子育ての方法がどうのこうのと言っているけれど、言っていないで関わったらいいよと思った。母親に対してもっとこうしたらいいんじゃないと、子育ての方向を母親を通して言っているのが、言っても責められているとしか母親は感じない。一生懸命やっているのに、責められて爆発するしかない。子どもにとっては、たく

さんの人に関わってもらったほうがいい。母親に対して提案するより、実際関わってみせて自分の価値観のほうが良いと思うならば自分の価値観で関わっていくほうが良いんじゃないかと思った。

30代・女性・Aさん

子育てに関わりたと思っている50代の女性が、今度二人目が生まれる娘さんが帰ってくることになり、自分が一人目をみたら娘が二人目に集中できるなど言っていて。話し合っているときに、親と子の断絶を感じられることもあるけれど、それを越えられるといいねとなって、あの絵になった。理想をつくりたい気持ちは良いことだと。目の前で困っているのを見るだけでなく、子どもとおばあちゃんが直接関わられるようになると良いなあと。



ワークショップ日程 | 参加者募集中!



4都市連携プロジェクトとは

この事業は、北九州芸術劇場（福岡県北九州市）、世田谷パブリックシアター（東京都世田谷区）、水戸芸術館（茨城県水戸市）、仙台市市民文化事業団（宮城県仙台市）の4団体が連携し、演劇的アプローチから「産み、育てること」を考えていくプロジェクトです。「産み、育てること」についての悩みや不安の多くは、そのすべてが個人に帰するものではなく、その「地域」の環境や背景を色濃く映し出しています。

このプロジェクトでは、地域毎に参加者を募り、「産み、育てること」にまつわるひとりひとりの経験や想いをタテ（世代）とヨコ（地域）の広がりの中に捉えていくことを試みます。自分とは違う世代、違う場所、違う立場を生きる他者と出会い、広い視野から自分を見つめ直して、明日への一歩となる新たな可能性を見出し、目指しています。



お問い合わせ

公益財団法人仙台市市民文化事業団 事業課事業企画係 担当：飯川

TEL：022-301-7405 FAX：022-727-1874 メール：info@sendaicf.jp

<https://www.facebook.com/tonarinokosodate>

主催：仙台市/日立システムズホール仙台 公益財団法人仙台市市民文化事業団 のびすく泉中央 助成：(財)地域創造 未来の可能性